

# 事業報告書

## 1. 総括

本年度は、指定管理事業所として中野区より引き継いで運営する4年目となり、事業内容の充実を図り、より多くの利用者の受入れを可能とするよう事業を進めた。また、中野区と締結した管理運営業務に関する2015（平成27）年度協定を遵守し、施設の管理運営面でも細心の注意を払いつつ事業を進めた。中野福祉作業所の移転先として予定されている中野5丁目障害者多機能型通所施設の創設および運営法人に当法人が選定され、説明会等について中野区と協力して実施するとともに、運営予定の事業に関する調査や研修を実施している。

利用者の積極性を引き出すことを支援の基本に置き、事業面では作業の手法や設備の導入、作業の導線や取り組む作業による作業位置の変更等を行っており、生活面においても新たな福祉サービス（移動支援や短期入所等）の利用や、プログラム等でも新しいことを始められるよう支援を行っている。そのことで利用者の多くが変化に対応できる力をつけることになり、楽しく前向きに新たなことに取り組めるようになってきている。

最近、利用を希望されて入所される利用者には、知的障害だけでなくいろいろなニーズを持った方が増加してきており、支援の領域も拡がりつつある状況である。当事業所に求められることが変化してきているものと認識しており、周囲の外部支援者とも協力してより手厚い支援を提供できる体制が必要になってきている。また、本年度は、第三者評価を受審して事業の評価と課題について外部の目を活用して、現状での取り組むべき課題を把握することに努めた。

## 2. 事業状況の概要

### (1) 事業実績

#### ① 概況

事業運営は、訓練等給付費と区の管理運営業務経費で行い、年間の事業計画に沿って計画的に執行した。上半期を過ぎたところで訓練等給付費の単価変更の影響を把握して、中野区との年度協定額の変更を実施した。給付費総額は前年度を大きく上回る実績を残すことができた。

#### ② 売上高・加工高

当期における収支、予算対比と売上高、加工高、加工高比率は表1のとおりであった。目標に対する達成率は売上高が94.8%、加工高が99.5%で加工高比率は82.6%であった。就労支援事業は軽作業と清掃作業と、自主製品等の製造販売、水耕栽培による野菜（いずれも「十五や」での物販事業）が中心で、売上と作業量は順調に増えており、前年度受注した大きな売上げの印刷物が本年度はなかったが、加工高はほぼ前年並であったため前年度を超える工賃総額を維持することができた。作業量の増加には利用者の作業領域を拡げて取り組める作業を増やすことで対処してきている。

表1 2015(平成27)年度 サービス種別の収支、予算対比 (単位：千円、%)

事業		年度	2015年度	2015年度	予算対比	2014年度	前年度
			実績	予算		実績	実績対比
就労 B型 継続 事業 支援	収入	就労支援事業収入	9,477	10,000	94.8	20,056	47.3
		福祉サービス事業収入	96,434	94,934	101.6	87,543	110.2
		その他の収入	733	0	0.0	332	220.8
	支出	人件費支出	78,387	77,456	101.2	80,380	97.5
		その他の支出	27,524	28,478	96.7	36,887	74.6

注) その他の収入は就労支援事業収入・福祉サービス事業収入以外すべての収入を加えたもの  
「人件費」は利用者工賃を含む人件費支出のすべての額を計上する  
その他の支出は人件費支出以外のすべての支出を加えたもの  
予算は第2次補正予算

表1 別表 就労支援事業別売上高・加工高 (単位：千円、%)

事業		年度	2015年度	2014年度	前年度増減	前年度
			実績	実績		対比
軽 作 業 等	売上高	9,477	20,056	-10,579	47.3	
	加工高	7,831	7,868	-37	99.5	
	加工高比率	82.6%	39.2%			

注) 「売上高」は就労支援事業売上のみとする。

(2) 人員の推移

① 概況

期中における在籍者の推移は表2のとおりであった。年度当初の利用者は47名(利用定員60名)であったが、1名が他施設へ移り、3名が一般就労した。6名が新たに利用を開始し、当期末現在の利用登録者は48名となっている。従業員については、非常勤従業員を1名増員したが、常勤従業員1名と非常勤従業員3名が退職した。

表2 在籍者の推移(2015年4月1日から2016年3月31日)

	前年度末 在籍者数	期中増減		主な減員理由	年度末 在籍者数		
		増員	減員	法人内異動を除く主な減員理由			
雇用就労者	0	0	(0)	0	(0)		0
事業・施設の利用者	47	6	(0)	5	(0)	自己都合2、一般就労3	48
その他	0	0	(0)	0	(0)		0
障害がある就労者(計)	47	6	(0)	5	(0)		48
障害がない就労者	18	1	(0)	4	(0)	自己都合4	14
合計	65	7	(0)	9	(0)		62

(注) 1) 本期より在籍者数に非常勤嘱託医を含んでいない。そのため期中増減と在籍者数は一致しない  
2) 増員及び減員の各右欄には法人内異動を( )で表記している。

(3) 処遇状況

① 給与・工賃

給与は法人の給与規程に基づき支給を行った。賞与は処遇改善助成金を別に支払うこととし、夏季は基準内給与の1.5ヶ月、冬季1.5か月、年度末に1.0か月分を支給した。利用者工賃は、売上高から必要経費を差し引いた額を支給した。工賃総額は、4年連続して前年を上回って支給とすることができた。(27年度平均工賃：13,480円)

表3 在籍者の男女別人員・平均年齢・障害状況(2016年3月31日現在) (単位：人・年)

	人員(人)			平均(年)		障害種別(人)			
	計	男	女	年齢(才)	在籍数	身体	知的	精神	その他
雇用就労者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業・施設の利用者	48	23	25	40.2	3.4	0	47	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障害がある就労者(計)	48	23	25	40.2	3.4	0	47	0	1
障害がない就労者	14	6	8	42.9	7.5				
合計	62	29	33	40.8	4.4	0	47	0	1

(注) 本期より在籍者数に非常勤嘱託医を含んでいない。

② 労働日数・労働時間・出勤率・超過勤務・年休取得率

本年度の労働時間は8時50分から17時30分までとした。年間では1,855時間30分である。利用時間は月～金曜日の9時から16時とし、この範囲内で個々の体調等に合わせて利用時間を柔軟に調整していくこととした。

表4 部門別平均出勤率・超過勤務・年休取得率 (単位：時間・%)

中野区中野福祉作業所	出勤率		超過勤務			年休取得率	
	出勤率	長欠・休職除く出勤率	総時間	一人平均	対所定時間	前年度	本年度
総務部門	100.0	100.0	1,999.5	166.6	9.6	41.9	61.0
営業部門	100.0	100.0	418.5	418.5	22.4	31.2	29.8
製造部門	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	2,418.0	186.0	10.7	41.0	58.1
障害者	83.4	83.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(内利用者)	(83.4)	(83.4)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
非障害者	100.0	100.0	2,418.0	186.0	10.7	41.0	58.1

③ 福利厚生

5月にはふれあい運動会に事業所として参加し、利用者32名が出場した。7月には日光方面で宿泊訓練を実施し、利用者39名、ボランティア2名が参加して交流を深めることができた。10月には地域交流の場として、野方まつりに参加して展示販売、模擬店、踊り発表を行った。

た。また、「十五や」のイメージデザインを活用してTシャツを作成し、利用者・従業員全員が着用して参加した。11月にはレクリエーション大会を実施し、利用者39名が参加した。また、希望者31名にインフルエンザの予防接種を近くの病院の協力を得て実施している。その他利用者自治会の行事として新年会、ボウリング大会等への協力を行った。

### 3. 個別事業状況

#### (1) 就労継続支援B型事業

##### ① 事業の概要

利用者個々人が積極的に利用できるよう作業や生活面での必要とされる支援内容に配慮している。さらに、一般就労を希望される利用者には、集中的に就労準備性を高めることができる支援体制とした。生活面での支援を必要とされる利用者が増えており、短期入所利用に向けて江原ハイツの見学を2回実施して、実際に数名の利用者が利用を開始された。第三者評価を受審し、利用者の評価は前回は上回る結果を残すことができ、課題も確認することができた。

##### ② 支援内容

(ア) 交通機関を利用しなければ通所することが困難な通所利用者に対し、実際にかかった費用について、1ヶ月の定期乗車券の購入に要した額を上限に交通費の助成を行った。

(イ) 昼食を一部有償で提供した。契約業者の弁当による給食であるが、利用者の体調に合わせてごはんの量が選択できるものとなっている。

(ウ) 毎月1回嘱託医による定期面談を実施した。8月に定期健康診断を実施して健診結果や従来の支援内容を踏まえ、常勤の看護師より毎月利用者へ個別にアドバイスをを行った。

(エ) 年度当初に家族も入って面談を行って個別支援計画を作成した。10月に振り返り面談を実施して利用者本人や家族の意向を受けて計画の修正を行っている。聞取りの内容は将来について重点をおいた。また、利用者個別の状況は、毎日の従業員ミーティングで把握して迅速に対応できる体制としている。

(オ) 苦情対応や虐待防止のため、管理者を受付者とする苦情受付窓口を設置したが、期中の苦情はなかった。従業員へは、障害者差別解消法の研修に4名を派遣し、プライバシーマーク研修を全員に実施した。

(カ) 特別支援学校生徒の実習やその他関係機関からの実習も受け入れており、さらに、利用希望者の実習についても積極的に受け入れ、6名が利用開始している。

(キ) 一般就労を希望される利用者には、就労準備性が整った方から外部実習や企業面接会等への参加を行い、4名が一般就労し1名は安定した就労を続けられるように施設利用も継続している。

##### ③ 作業活動

(ア) 封入封緘等の軽作業においては、利用者が行う作業領域を拡げて検品や機械作業の補助等の取り組みも開始している。これまでに困難であった作業量の案件も受注できるようになっている。

- (イ) 利用者を8班に分けて担当従業員をつけて、個々の課題を支援できる体制とした。提供できる作業によって作業する場所を変更して、より効率的な導線に沿った作業体制を整えた。これまでに取り組んだことのない作業をやることで、積極性と能力開発につながる支援に重点をおいている。
- (ウ) 軽作業：従来請負っていた軽作業の他に、当法人の他事業所との連携で封入作業等を受注し、区内ネットワークとも協力して定期的に入る作業を受けることで、慣熟して生産量をあげることができてきている。また、企業と直接取り引きの作業を受注することも積極的に進めている。
- (エ) 清掃：中部すこやか福祉センターの建物清掃と体育施設清掃、公園清掃は新井南、野方1丁目、早稲田通公園の3ヶ所を受託した。他に2か所の高齢者会館の定期清掃も行った。できるだけ多くの利用者が取り組めるように、個々の能力に配慮して清掃箇所を決定している。
- (オ) 自主製品：在庫切れをおこさないよう生産量を調整しつつ、新たな製品の開発にも取り組んでいる。「十五や」での販売を中心に、他施設の商品の販売もあわせて物販事業として事業拡大をめざしている。
- (カ) 工賃は、清掃作業では作業に取り組んだ個々の回数で分配し、その他の作業では収入総額を出勤した総時間で時間単価を出して支給した。

#### ④ プログラム活動

2か月ごとに3種類のプログラムの中から、本人が選択して参加できるものとした。本年度は、調理とダンスを通年で実施して、その他に外出、ボウリング、体操、買物、絵描き、カラオケ、DVD鑑賞、手作り等多岐にわたるプログラムを提供して、生活支援やレクリエーションの領域を拡げること努めた。前年に引き続き参加率は高い状況にある。

### (2) 関係団体、家族、企業とのネットワークづくりに関すること

#### ① 事業の概況

- (ア) 中野区障害者自立支援協議会施設事業者連絡会、関係機関等からの意見を聞き、施設運営に生かした。
- (イ) なかの就労支援ネットワークに参加し、地域との関係強化に努めた。共同受注部会及び雇用就労部会、広報部会に委員を送り情報収集に努めた。
- (ウ) 東京都セルフセンターの事務局として、障害者優先調達推進法の共同受注窓口としての機能を担った。
- (エ) 社会就労事業本部内事業所と協力して、社会福祉士や精神保健福祉士の実習生やその他の研修を積極的に受け入れた。
- (オ) 利用者家族との情報交換の場として保護者連絡会を年10回開催して、家族との情報の共有に努めた。

### (3) その他

#### ① 組織・人事

利用者を8つの班に分けてそれぞれに担当従業員を配置し、利用者支援を手厚く行うことが

できる体制とした。看護師を配置しており、健康面での支援にも重点を置いている。他に専任の営業員を配置し受注開拓に力を注げる体制とした。監督職1名を配置して組織的な活動を効果的にできる体制とした。

## ② 教育・研修

(ア) 外部研修に従業員を延べ14名参加させた。

(イ) 利用者が行事で代休となる就労日に全従業員を対象に研修と外部研修の報告会を行った。

(ウ) 生活介護事業の情報収集のため、2事業所の見学と2名を研修に派遣した。

## ③ 施設・設備等整備

放送設備の更新と衛生管理のため食洗機を導入し、新事業として前年度導入した水耕栽培設備を稼働して生産を開始した。

## ④ 定例会議

従業員会議（月1回）、利用調整会議（随時）などを開催した。作業打合せと従業員ミーティングを毎日実施して、利用者支援における情報の共有とタイムリーな対応ができる体制とした。

## ⑤ 防災・安全・衛生

野方保育園との合築施設として、保育園との共同訓練を2月に実施し、作業所独自の避難訓練を9月に実施した。利用者が水分補給に使うコップを洗う食洗機を導入して衛生的な使用に配慮した。